第６回北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会
開催報告

１．日時

2022 年 2 月 25 日（金）14:00～16:00

２．場所

倶知安町役場　２階会議室

３．報告事項

（１）第２回インバウンド観光勉強会の開催結果について　…　資料１

（北海道運輸局　倉信課長）

・資料１について説明。

（木村委員長）

・勉強会の議論を踏まえ、要望書に盛り込むような事項があればご提案いただきたい。

（斎藤委員）

・第２回勉強会の中では、南紀白浜での顔認証システムの事例について紹介されていた。手ぶらで海岸へ行き、買い物など色々なことが出来るということが印象に残るが、この委員会で考えられている駅施設や要望書にどの程度結び付くかというと、現時点で直接ピンとくるものはない。

・恐らくは、２０３０年までの間にこのような仕組みはどんどん進んでいく。最初に駅で顔認証の登録をするといったように、駅が起点となる可能性はあると強く感じた。駅からスキー場やリゾート地までの移動、お金の使い方を含めた、色々な起点になるということをイメージして駅を作っていただきたいと、勉強会の講演を聞いて感じた。

・駅に来られたお客さんは、どれだけ駐車場を利用するのか。レンタカーを借りホテルに泊まる方は利用しないのかもしれないが、スキー場に来られる方は駐車場を利用する方もいると思われる。今は駐車場を無料にしているが、有料にして出来るだけ整理できるようにすればどうかと、地元から多くの意見が出ている。そういった点に関する起点としても、倶知安駅は中心になるべきだという印象を持った。

（柏谷委員）

・手段や道具としての面では、事例のような機能が駅へ入って来ることも考えることができ、斎藤委員のご意見へ賛同するところもある。しかし、デザインを中心としたイメージの部分へとどう関わってくるのか、イメージが出てこない。どちらかというと、西口の交通体系をどう考えていくかという中で、検討する所もあるのかと思われる。要望書とどう結び付けるかが分からない。

（峠ヶ委員）

・第１回勉強会では、リゾート全体の未来のイメージに関する話があった。要望書へもし落とし込むとすれば、「未来」という部分を落とし込むと、また印象が変わるのではないか。現在の案では、今ある風景と、周辺景観とが調和した駅といった記載がなされているので、ある程度未来の予想がついているのであれば、勉強会の成果も反映されることになるのではないかと感じた。

（木村委員長）

・未来というと、具体的にどこに未来が反映されると思われるか。

（峠ヶ委員）

・「未来＝世界中の人が集まる」といった印象があるので、要望書７ページの部分。未来の予想図が作成されているのであれば、花園エリアのイメージなどを落とし込んでも良いのではないかと思った。また、「未来と調和した」という文言があっても良いのではないか。

（金塚委員）

・今の要望書では全体的にウッドなテイストの写真が多い。勉強会をしたと示すためにも、例えば電光掲示板の写真など、未来的なシステムを導入する気持ちがあるという内容を入れても良いのではないか。未来的には海外客も多くなってくると思われるので、英訳した電子ポスター等が掲載されても良いと思う。

（佐藤委員）

・駅の整備に関する要望書としてはかなり完成していると思うが、９ページ「③世界的なリゾート地の玄関口にふさわしい駅」ということで、２０３０年の開業時において世界的なリゾート地の玄関口に相応しいというよりも、将来にわたって相応しいよう、努力できるような駅であるということが謳われても良いのではないかと思った。

（木村委員長）

・要望書についてはまだ議論が出来る状況であり、来週月曜日の勉強会や３月１９日のシンポジウムを踏まえ、更にアップデートしていくことも可能。事務局へ一旦お預けし、文言については、未来へ向かっていく駅なのだということをまとめて頂き、改めてご提案いただくということにしたい。

（柏谷委員）

・２０３０年の先という話もあったが、やはり未来という言葉を安易に使うと、かえって遅れた形になりかねない。時間軸を変な形にしてしまうと、いつの話、ということになりかねない。そこは配慮して頂ければと思っている。

（２）くとさんパークあり方検討部会の検討状況（中間報告）について　…　資料２

（植田係長）

・資料２について説明。

（柏谷委員）

・部会の意見をまとめると、安易に要らないという話ではなく、将来必要なのか、生かしていけるのか、費用を含めて検討をした結果、残せるのか残せないのかをじっくり話し合うことが必要だ、という議論であった。最初は、公民館の前のＳＬや鉄道公園の転車台に関する議論なのかと思っていたが、やはりロクさんを通じて倶知安に染みついている鉄道の文化があるのだと感じた。議論を聞いていくと、将来的に新幹線駅を含め、自分たちが話し合っている内容が将来に渡り繋がっていくということを、過去を見ることで感じる委員会なのだと思っている。

・写真と図面を見ながら議論を進めていく中と、転車台を少し回せばあまり影響が無く残せるのではないかという話が急に出てきたりして、大変な一方である意味面白いと感じた。全体で見ていくものと、個別で見るものが色々あるのだということを改めて感じた。

（本田副委員長）

・転車台単体で考えるのではなく、やはりストーリーとしてどう捉えるかが大事だと思う。ＳＬの歴史として、転車台をどこに位置付けるかを考える必要がある。公民館の前のＳＬや倶知安駅の入口にある看板など、ストーリーづけていかなければ、「転車台って何？」と思われるのではないか。

・転車台をもし残すのであれば、くとさんパークの駐車場も含めたエリアで、倶知安駅はこういう成り立ちだということを表現する必要があると思う。例えば新幹線駅が整備されている一方で、昭和の駅も再現されているなど。「転車台」というと、転車台を残したい人達の思いでしかないような気がしている。部会ではこのような議論が出来ればと思っている。

４．議事

（１）北海道新幹線倶知安駅の整備に関する要望書（案）について…　資料３

（ドーコン　朝倉）

・資料３について説明。

（木村委員長）

・まず４ページについてご意見はあるか。

（柏谷委員）

・眺望できる駅のイメージとして、参考資料２ページの右下の写真が良いのではないかと思った。入れ替えるならば、サンモリッツ駅の写真だと思っている。

（ドーコン　朝倉）

・５枚目としての追加も良いと思われる。

・掲載している写真には、薄く「ＰＩＸＴＡ」と記載があるが、これは使う写真を決定次第、購入したいと考えている。サンモリッツ駅についても消去しないのであれば、購入する。

（木村委員長）
・サンモリッツ駅については残しても良いか。
（本田副委員長）
・サンモリッツは、倶知安町と姉妹都市ということもあるので、入れた方が良い。
（木村委員長）
・それでは全部で５枚掲載するということで、サンモリッツ駅の写真を購入して頂きたい。
（柏谷委員）
・「姉妹都市サンモリッツ」と記載した方が良いのではないか。
（木村委員長）
・「姉妹都市」の文言は、入れても良いのではないかと思われる。
・５ページについてご意見はあるか。
（本田副委員長）
・冬の写真について、スキーヤーが随分レトロな格好をしている気がする。先日自分が撮った写真をまた提供したい。
（斎藤委員）
・運営しているスキー場の保管データも探ってみる。
（木村委員長）
・本田副委員長と斎藤委員から写真を提供して頂き、それを事務局で調整してほしい。
・飯山駅の写真には、柱の拡大図が合成されているが、これが拡大図だと分からない恐れもある。要らないのではないか。
（ドーコン　朝倉）
・拡大図については消去する。
（木村委員長）
・この柱には、柱ごとに春夏秋冬のデザインが施されてある。しかし写真ではなかなかわからない。
（斎藤委員）
・四季が施された４種類の柱の写真は無いのか。折角工夫されているのであれば、わかった方が良いのではないかと感じた。
（木村委員長）
・それでは、それぞれの柱のアップの写真を４枚用意する。
・６ページについてはいかがか。
・もし写真を６枚掲載するのであれば、森林のイメージがあっても良いと思うのだが、参考資料６ページの写真では雪が被っている。これはどうなのか。
（ドーコン　朝倉）
・雪が被っていない写真にすることもできる。ただ、これが北海道の写真であるということはわかるが、倶知安町の森林のイメージなのかどうかが怪しい。
（木村委員長）
・倶知安町の町の木は何になるのか。

（柏谷委員）
・町の木はイタヤカエデ。
（木村委員長）
・イタヤカエデの写真であれば、広報などに掲載されているのではないか。
（ドーコン　朝倉）
・製材のイメージであれば、広葉樹よりも針葉樹の方が良いのではないかと思った。倶知安町のエゾマツやトドマツ、カラマツの写真がもしあれば、より良いのだと思っている。
（木村委員長）
・どなたか心当たりはないか。
（柏谷委員）
・倶知安町ではないが、羊蹄森林組合の組合長が写真好きと聞いている。
（木村委員長）
・それでは柏谷委員より写真の提供をお願いしたい。
（金塚委員）
・参考資料５ページの、長野駅の写真が凄く素敵だと思う。この長野駅の写真も追加してはどうか。
（柏谷委員）
・お聞きしたいのだが、オスロ・ガーデモエン国際空港駅では、駅のホームに手を加えられているとのことだが、駅のホームに手を加える場合、別途予算が必要となるのか。
（鉄道・運輸機構　松谷課長補佐）
・新函館北斗駅や木古内駅を見て頂くと分かると思うが、通常は鉄骨の柱と梁で構成する。大規模な駅では木材が使われている例が少なく、必ずできないとは言い切れないが、色々と課題があると考えられる。また実際にメンテナンスするＪＲ北海道にとっても、鉄骨の場合と比べるとメンテナンスの頻度がかなり高くなってしまう。
（本田副委員長）
・要望書とは関係ないが、５ページの写真について、どちらかというと都市施設の待合室がこのようなイメージであれば素敵だと思った。
（木村委員長）
・長野駅と、駅の左右に配置された商業施設を結ぶ通路がこのようになっている。倶知安駅で言うと、真中の入口の２階部分にこのような通路があるイメージ。
・長野駅の写真は採用ということで良いか。
（柏谷委員）
・２枚入れて、旭川駅のイメージを外してはどうか．飯山駅、高尾山口駅の写真があるのであれば、旭川駅のようなイメージも連想されるのではないか。
（木村委員長）
・どの写真を残すかについては並べてみた中で検討して頂きたい。
（ドーコン　朝倉）
・窪田委員から提供された２枚の写真は著作権に関する許諾が得られていない。これから交渉させていただく点、ご了承いただきたい。

（木村委員長）
・９ページのオスロガーデモエン国際空港の写真は、空港にも駅にも感じられないスペースのように見える。リゾート地の玄関口にふさわしい駅というイメージの写真であるということか。
（ドーコン　朝倉）
・意図としては、デザイン性があり、ゆっくり休めるというようなイメージで掲載している。
（本田副委員長）
・インバウンド観光勉強会では、モビリティに関して駅からの交通体系についての話題があったが、ここには富山駅のようなイメージが入って来るのではないかと思う。
（木村委員長）
・これは一旦保留にして、月曜日の勉強会の様子を見てまたご提案いただくということにしたい。
（斎藤委員）
・オスロガーデモエン国際空港の写真はこれといって特徴がない。チューリッヒ国際空港の写真を上に移動し、バンクーバー国際空港の写真を左に寄せ、現在バンクーバー国際空港の写真が入っている部分に、電子公告のようなイメージを入れてはどうか。
（木村委員長）
・もう少し駅舎の中のイメージが掴めるような写真も検討して頂きたい。
・８ページの写真についてはいかがか。
（金塚委員）
・建築家のことを考えると、現状の倶知安駅から見た写真と、くとさんパーク側が見える写真があった方が良い。窓を設置する際、倶知安駅からどのような景色が見えるのか、周辺の様子が分からないと思う。
（木村委員長）
・そういった写真はあるか。
（ドーコン　朝倉）
・もし追加するのであれば、くとさんパークの写真を掲載することも考えられる。
・資料２に関する参考資料の、８ページ右上のような写真はどうだろうか。
（木村委員長）
・もう少し引いた写真であれば良いかもしれない。
（峠ヶ委員）
・周辺景観という部分に焦点を合わせると、要望書８ページ左側の駅前通りのような写真は象徴的なイメージ。一方で駅の裏は緑のイメージであるので、旭ヶ丘公園のような写真があれば良いと思う。
・右側の写真はニセコアンヌプリのみ写っているが、ニセコアンヌプリのほかに、イワオヌプリやワイスホルンが写っている写真があれば、周辺景観のイメージが伝わるのではないか。
（本田副委員長）
・最終的には無電柱化となるので景観が変わる。掲載されている写真と、可能であればドロ

ーン撮影による全体が見えるような写真があれば一番良い。また、右側の写真は少しイメージが違うのではないかと思う。

・羊蹄山側の写真はあるが、ニセコアンヌプリに対しての写真が無い。我々住民も、倶知安町に来られる方も、国道側から見る視点の方が多いと思う。

（柏谷委員）

・景観部会の資料では、ドローン撮影による駅の上からの視点の写真があった。

（ドーコン　朝倉）

・写真を変更するのであれば、８ページ下部の文章についても変更する必要がある。

（木村委員長）

・写真については探せば出てきそうな感じもある。明日以降の新たな撮影も含め検討して頂きたい。

（柏谷委員）

・周辺景観と調和した駅に関連するかはわからないが、以前、飯山駅へ夜中に到着したことがあり、その際に見た駅のイメージは浮き上がるような感じで綺麗だと思った。倶知安駅においては、夜はどのようなイメージになるのだろうと思った。真っ暗にするのか、照明をギラギラさせるのか、控えめにするのかなどは、他の駅では議論されているのか。

（木村委員長）

・飯山駅の場合は光柱があり、木が浮き上がるように表現している。光柱については理事者の考えがころころ変わることもあり、照明を付けたり消したりしている。

・ＪＲ北海道へ伺いたいのだが、夜の駅舎は真っ暗ではないと理解してよろしいか。

（ＪＲ北海道　野澤主幹）

・全ての駅の夜間の運営方法を把握している訳ではないので、はっきり答えられないが、基本、営業時間外である夜の時間帯は、駅は暗くするのではないのか。

（木村委員長）

・飯山駅の場合、営業箇所は消灯するのだが、ホームの最低限の照明は点いている。光柱もあるので、夜は良い雰囲気となっている。また、鏡面に近いようなガラスが斜めに配置されており、周辺のものが映り込み幻想的な雰囲気がある。

（本田副委員長）

・飯山駅は仏壇通りとの一体感がある。倶知安駅においても駅前通りをどう使っていくかという議論があるが、それはこれからの議論であると思う。メインはニセコ山系との一体感のイメージであり、少し後の話になるのではないかと思う。

（木村委員長）

・色々な角度で撮影した写真を集めて頂いて、駅と周辺景観の調和や、夜に降りた時のイメージも含めて検討するということでいかがか。

（本田副委員長）

・下部の文章も、すべて掲載する必要はないと思う。

（ドーコン　朝倉）

・文章を削り、写真を４枚ほど掲載できるようなレイアウトとしたい。

（木村委員長）

・７ページの写真についてはいかがか。

（柏谷委員）

・駅の運用の話かもしれないが、駅が出来た際には、参考資料７ページの写真のようなイメージがあってほしいと思っている。

（木村委員長）

・これはどの写真を外すということではなく、６個の写真のうちのひとつとして追加しても良いと思われる。

（本田副委員長）

・倶知安の歴史が感じられる写真がストーリー立てて展示されていれば良いと思っているのだが、地域のディスプレイがなされている駅はあるのか。

（ドーコン　朝倉）

・インバウンド協議会では金沢駅の事例が紹介されていた。

（鉄道・運輸機構　松谷課長補佐）

・金沢駅では待合室の壁面を提供し、地元から提供された工芸品を並べている。他にも、現在建設中の北陸新幹線 越前たけふ駅でも、地域の伝統工芸品が多くあるため、駅の中に展示スペースを確保し、町の方で工芸品を入れて頂くという試みをしている。

・横浜のみなとみらい線の元町・中華街駅では、ホーム空間の壁に横浜港の歴史や写真をタイルにプリントしたものを内壁に使っている。場所を取らない方法としては壁に付けるもの、場所があるのであれば展示することもできるといったように色々と方法がある。町の意向なども確認しながら今後検討していきたい。

（本田副委員長）

・ひらふ地区にあるコンドミニアムでは、エントランス、廊下、部屋においてアイヌの歴史がストーリーになって表現されている。町外から来られる人に地域を知ってもらうという意味では、このような表現があっても良いと思う。

（ドーコン　朝倉）

・文言についても、「地域の文化と賑わいを感じられる駅」と変更した方が良いかもしれない。

（木村委員長）

・金沢駅の事例では、コンコースの中に展示されているのか。

（鉄道・運輸機構　松谷課長補佐）

・金沢駅は駅の待合室の中に展示されている。場所は機構で用意し、そこへ入れるものは自治体から提供いただいている。維持管理は自治体によりなされている。

（木村委員長）

・確かに、駅の中に風土や文化が感じられるようなものがあっても良いと思っている。またいくつか写真や事例を集めて頂きたい。

・要望書については、月曜日の勉強会の結果も含め再提案して頂く。

５．その他

（清水参事）

・その他として３点ご報告させていただく。まず１点目として警察との協議状況について、

倶知安警察署へ昨年１月、８月に訪問し、整備推進委員会における東口駅前広場の検討状況を説明するとともに、交番の駅前広場内への移設を要請し意見交換を行っている。今年度の整備推進委員会における検討結果に基づき、東口駅前広場の施設計画概要、車両動線、出入口部の形状などについて説明を行い、現在、倶知安警察署から道警本部に確認事項等の照会を行っているところ。また駅前交番の移設場所については、都市施設内への移設を含め北側交通広場付近での検討を依頼している。

・２点目のバス会社との協議状況について、まず道南バスとの協議状況については、倶知安営業所へ昨年２月、８月、１０月、１２月と訪問し、整備推進委員会における東口駅前広場の検討案を示し、意見聴取を行い、レイアウトへの反映を行ってきた。先日、今年度の整備推進委員会における検討結果に基づき、室蘭市の道南バス本社を訪問し、新駅周辺整備に向けた検討状況、東口駅前広場レイアウトの最終案、事業スケジュール案などについて説明を行ってきた。道南バス幹部の方からは、「使い易そうなレイアウトで良い」とコメントを頂いた。

・ニセコバスとの協議状況については、昨年２月、８月、１０月、１２月に本社へ訪問し、整備推進委員会における東口駅前広場の検討案を示し、意見聴取を行い、レイアウトへの反映を行ってきた。先日、今年度の整備推進委員会における検討結果に基づき、本社を訪問し、東口駅前広場レイアウトの最終案などについて説明を行った。ニセコバス幹部の方からは、「課題点などが改善され、大変ありがたい」とのコメントを頂いた。

・３点目、来年度の整備推進委員会のスケジュール及び検討内容の案について、まずスケジュールとしては、現時点では４月、５月、７月、８月、１０月の５回程度の開催を想定している。検討内容としては、倶知安駅西口周辺エリアについて、西口駅前広場や駐車場、その他関連する公共施設、西口駅前広場へのアクセス道路となる（仮称）くとさん川通などに関して、必要な規模等について具体的な検討を行いたいと考えている。また検討結果に基づき、下期に西口駅前広場の基本設計を行い、事業推進のために必要な基本設計図の作成や、概算工事費の算出などを行っていきたいと考えている。さらに、新駅と一体的に整備する予定の都市施設について、今年度の整備推進委員会における検討結果を踏まえ、鉄道・運輸機構と協議、調整を行いながら基本設計を進め、その中で具体的な規模、配置等の検討を進めていきたいと考えている。

（本田副委員長）

・西口検討にあたっての提案として、ドローン撮影による西口の写真があったと思うが、やはりパース図ではなく、大きな写真を用意した中で話さなければイメージが湧かない。写真を見ながら検討した方が、現実味がある。

６．閉会

（文字町長）

・私が知る限りでは、倶知安町においてこれだけ熱度の高い委員会はないと思っている。前に進んだり後ろへ下がったりを繰り返しながら、皆様の沢山のご意見を頂き、多角的な視点を持って様々な検討をして頂いていること、心より感謝申し上げる。お陰様で、着実に一歩一歩前進しているということを感じている。

・今年度の委員会において、大きくは３点の議論があったと思う。１点目として、駅前広場の東西の機能分担はどういった形となるのか、配置計画についての検討。２点目として、都市施設の導入における、機能や規模、配置の検討。３点目としては、機構に提出する要望書の検討。また昨年１２月からは、北海道運輸局主催のインバウンド観光勉強会が開催されている。要望書へどういった形で反映できるのかについてはこれからの話であるが、より良いものに出来ればと考えている。木村委員長をはじめ、委員の皆様の大変な行動力、ご協力を頂き、改めて感謝申し上げる。

・今月３日、町内で「並行在来線対策協議会後志ブロック会議」が開催された。その中で、北海道新幹線の札幌延伸に伴い、ＪＲ北海道から経営分離される並行在来線の長万部～小樽間のうち、まずは長万部～余市間の鉄路の廃止とバス転換が合意された。これは大きな節目であろうと思っている。今後はバス運行の基本的なルートやダイヤについて、バス事業者と正式に協議を行いながら、検討を進めていく流れとなっている。

・並行在来線については一定の方向性が決まったということで、それに合わせ、来年度からは新駅西口の周辺エリアについて、本格的な検討を行っていただくことになる。国際リゾート地として相応しい新駅、そして新駅周辺を含めた新たな賑わいづくりが、どういった形で倶知安の将来に繋いでいけるのかが大変重要。引き続き皆様のお力添えを頂いて、北海道新幹線を契機とした、倶知安或いはニセコエリア、羊蹄山麓、後志、北海道において大変重要なエポックとなるであろう２０３０年度を目標に、進めさせて頂きたいと思っている。来年度以降も本町における新幹線まちづくり行政の推進にご協力いただきますよう、改めてお願い申し上げる。

（清水参事）

・次回の委員会については、４月に改めて日程調整をさせていただきたい。

以　　上